第３３５回　令和８年１１月２４日（火）

「生き物が進化するために必要なこと」

東京大学の小林教授の講演を聞きました。「生物が死ななければならない理由」について、とてもわかりやすい説明でした。新書もベストセラーになっています。小林先生は神奈川外語短大付属高校（現在の横浜国際）出身ということでした。

私の理解ですがＲＮＡや、それが安定したＤＮＡなどの遺伝子は変異することがあり、より環境に適した遺伝子が生き残ります。このため常に古い遺伝子は消去される必要があります。これが「死」です。

ある遺伝子が不老不死だったら変異した新しい遺伝子が生き残っていくことができません。私たち生物は遺伝子の「乗り物」であり、古くなると捨てられて新車に乗り換えられるようなイメージだと思います。いつまでも古くならず永遠に乗り続けられる車ができてしまったら新車が作られなくなってしまいます。

そうやって生物は進化を繰り返してきました。乗り物に過ぎない人類は不老不死を求めて様々な研究をしてきました。古代中国の皇帝が「水銀」を不老不死の薬と信じて飲み続け命を落とした話は有名です。

最近「老化」は病気の一種であるとして老化する原因を取り除く研究が盛んにおこなわれています。人間の平均寿命は８０代に達しましたが、それでも最高年齢は１２０歳が限界のようです。現在記録に残っている最高年齢は１２２歳とのこと。これは昔から変わっていないそうです。

もし不老が達成されたら、ほとんどの人は若いまま１２０歳近辺で突然亡くなるのかもしれません。「死」が生物の進化のための重要なファクターだとしたら不老だけ達成されることは果たして幸せなのでしょうか。

老化することをポジティブにかんがえるのは難しいと思います。それでも若くて元気がありあまっている状態で「死」を迎えることも残酷なような気がします。植物と同じで枯れていくことも必要なのかもしれません。

生き物が時代や環境に適応しながら進化を繰り返し、次の世代にバトンを渡す。これは種にとっての不死なのかもしれません。だからこそ生きている世代だけで限られた資源を汚したり、使いつくしてしまったりしてはいけないのだと思います。自分だけよければ良いという考え方は遺伝子のバトンを途切れさせてしまいかねません。